



開発建設部

沖縄の観光振興に貢献する旅客船ターミナルの整備

～観光客1000万人へ向けて～

沖縄のクルーズ船の状況

国内外からの大型クルーズ船による観光客の受け入れは、沖縄県のリーディング産業である観光の振興を進める上で重要です。

2014年沖縄へのクルーズ船の寄港は162回を記録しました。さらに2015年は206回を予定(2月末時点)、そのうち那覇港は101回、石垣港は96回とそれぞれ過去最多の見通しとなっています。また、那覇港においては過去最大となる16万トン

級のクルーズ船の寄港も予定されています。

旅客船ターミナルの整備状況

大型クルーズ船の受け入れ施設の整備は、沖縄総合事務局と港湾管理者で連携して取り組んでいます。沖縄総合事務局は、重要港湾(那覇港、石垣港、平良港)において、国直轄事業として旅客船ターミナル(岸壁、泊地)や臨港道路等の整備

を、港湾管理者は旅客船ターミナルビル等の整備を行っています。
那覇港では、旅客船ターミナル、臨港道路若狭1号線を2009年9月に暫定供用し、2014年4月にはターミナルビル、8月には臨港道路若狭2号線を供用しています。またクルーズ船とターミナルビルを繋ぐボーディングブリッジも整備され寄港環境が向上しています。現在は、岸壁の拡幅工事を行っており、観光バスやタクシーなどの駐車スペースを拡充することにより、ふ頭内の混雑が緩和さ

れ、更なる利便性の向上が図られます。
また、石垣港では、7万トン級に対応した旅客船ターミナルの整備を進めており、平良港においても貨物船と旅客船の兼用となる複合一貫輸送ターミナルの整備を行っています。

